

= 勝負の年・ともに前へ =

久々にゆっくりした年末年始を過ごさせていただいた。少しずつ少なくなっはきたが(髪の毛の話ではない…(笑))、200枚ほどの年賀状を拝見する中で、もう30数年前にもなるが、職場で鍛えられ、お世話になったO田上司やY崎先輩の賀状には変わらぬ優しさにご心配の思いが滲んでいた。当然のこととはいえ、いくつになっても年齢は追いつき、追い越せるものではないと納得しつつ、感謝の思いに浸ったお正月となった。

皆さんはどんな正月をお迎えになったのだろうか。私の周りには、昨年、ご両親やご親族のご逝去によって寂しい年越しをされた仲間もいた。また、お子さんの誕生やご子息の婚姻など、おめでたいこともいくつかあった。そんなことより、受験生を抱えるご両親は、気を遣う年越しだったかも知れないし、受験生当人は年末年始なんて関係ない！ということだろう。もとより、交代勤務の仲間の皆さんは、昼・夜問わずの勤務で各事業所、産業・企業を支えてくれている、そんな皆さんに今年も何度頭を下げてもらいたい。

短い年末年始の中でも、いろんな思いや出来事があるように、長い人生も人それぞれ、人生観も違うことは間違いない。

そんな、こんな思いを巡らしながら、年の初めに労働運動に臨むにあたって、今一度、胸に焼き付けたことがある。それは、労働組合の究極の目的は組合員とその家族の幸せ追求であるということ。「今年1年健康でありますように…。よき人に巡り合えますように…。家族が健康・安全でありますように…etc.」人それぞれに祈りや幸せの形には違いはあるが、まさに「貴方と貴女の幸せはきっと違うけど、幸せと思えるときの笑顔は同じ」なのである。

2019年、労働運動を通じて働く仲間の笑顔、生活者の笑顔をどのようにつくっていくか。まずは職場の活力発揮が企業基盤の確立につながり、働く者の笑顔をつくるAP19春季取り組みが当座の課題。そして、ものづくり産業が培ってきた技術・技能にさらなるイノベーションを加え、第4次産業革命という複雑化するグローバル競争に打ち勝つための土台をつくり、私たちの働く産業・企業の発展と持続可能性を形づくるための産業政策が二つ目。加えて、社会保障など将来不安を払しょくし、生活の安心・安定を確立していくための政策・制度改善につなげる政策実現活動が三つ目となる。4月に迫った第19回統一地方選、そして7月の第25回参議院議員選挙における田中ひさや氏の必勝。これらが基幹労連第9期の総仕上げに向けた取り組みである。そして、そのすべての取り組みは、働く仲間の安全と健康が基軸、それなくして組合員とその家族の幸せ追求はかなわない。

基幹労連にとっての昨年は、組織力量の再生・強化と実践力の発揮に向けた地道な取り組みの1年だった。成年に例えれば、耳をそばだて、多くの仲間の声を聴き、においをかいで事の本質を見極める備えの年だったともいえる。

準備は整った。迎えた亥年は前に前に推し進める時。今年はラグビーワールドカップが日本で開催される。ラグビーに関わる名言に、**one for all all for one**「一人はみんなのために みんなは一人のために」がある。そして、**honor is equal** (オナー・イズ・イコール)「それぞれの役割は違っていても各人が受ける名誉は等しい」という言葉も知った。各々が自らの役割と責任の下、熱い思いをもって力を出し切り、スクラム・トライ！

みんなの笑顔をつくること、幸せづくりの手助けが労働組合の使命である。みんなで決めたことをみんなで必ずやり遂げる。猪突猛進、基幹労連の勝負の年である。ともに、前に前に。

ご安全に

2019年1月8日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一